

# 平塚の石仏めぐり

## 24. 山下・高根編



高根路傍の双体道祖神

### 山下・高根の石仏

山下地区は市内南部に位置し、金目川西岸の高麗山北麓に所在する地域です。『新編相模國風土記稿』には、小名に、上山下、下山下が記されていますが、現在もこの区分は残されています。かつてこの地区は、水田稲作等を中心とした農村地帯でありましたが、現在では宅地化が進み、その面影はほとんど見かけられなくなりました。

一方、高根地区は、高麗山、浅間山といった大磯丘陵の北麓に位置する地域で、『風土記稿』の小名には、上高根（丘陵中腹）、下高根（丘陵下）が挙げられています。

山下の石造物の大部分は以下の二つの神社にあります。一つは上山下の八幡神社で、庚申塔と6基の宝篋印塔などの石仏群が網囲いの中に集められています。また、二つ目は下山下の若宮八幡社で、地蔵、道祖神、庚申塔、馬頭観音などの石仏群が網囲いの中にあり、なかでも道祖神は寛政5年(1793)造立で、現存する文字道祖神として市内で最古のもので見逃せない一つです。

また、高根には、鎮守の岩戸分神社にある地神塔と大日如来、神社手前三叉路の2基の道祖神などがありますが、右側の元禄8年(1695)造立の道祖神は、現存する双体道祖神として市内で最古のものです。

併せてこの山下地域に点在する、曾我兄弟の伝説にちなむ虎女の足跡を辿りながら散策するのも良いかもしれません。

### 石仏豆知識 19. 道祖神

路傍や辻にひっそりと佇んでいる道祖神は、疫病神などの災いが集落に侵入することを防いでくれる神とされています。

道祖神は県内では「サエノカミサン」「セーノカミサン」と呼ばれることが多く、市域には270基あり、地蔵に次いで造立数が多い石仏です。全国的にみても平塚市周辺は、道祖神が多い地域といえます。

姿かたちも多様で「道祖神」などの文字だけを刻む文字碑が111基と最多です。また二神が並び立つ双体像が102基、一神が立つ単体像が22基、石祠が19基、他に五輪塔や宝篋印塔残欠などを集めたものもあります。

このように道祖神は、地蔵や庚申塔のように1基の石仏だけでなく、五輪塔片のみで道祖神祭場が造られることもあり、これらも信仰の対象とされています。

道祖神の祭りは、市域ではセートバライやドンド焼きなどと呼ばれており、最近では自治会が運営するところが多く、小正月である1月14日前後の土日などに行われ、古いお札、門松やお飾りを道祖神のまわりに集め火をつけ、燃やします。

かつてのセートバライは子供たちが中心の行事で、藁で作った小屋を拠点にお賽銭を貰いに家々を廻ったり、道祖神を参拝に来られた人々に、お神酒や団子をふるまったりしてお賽銭を集めました。

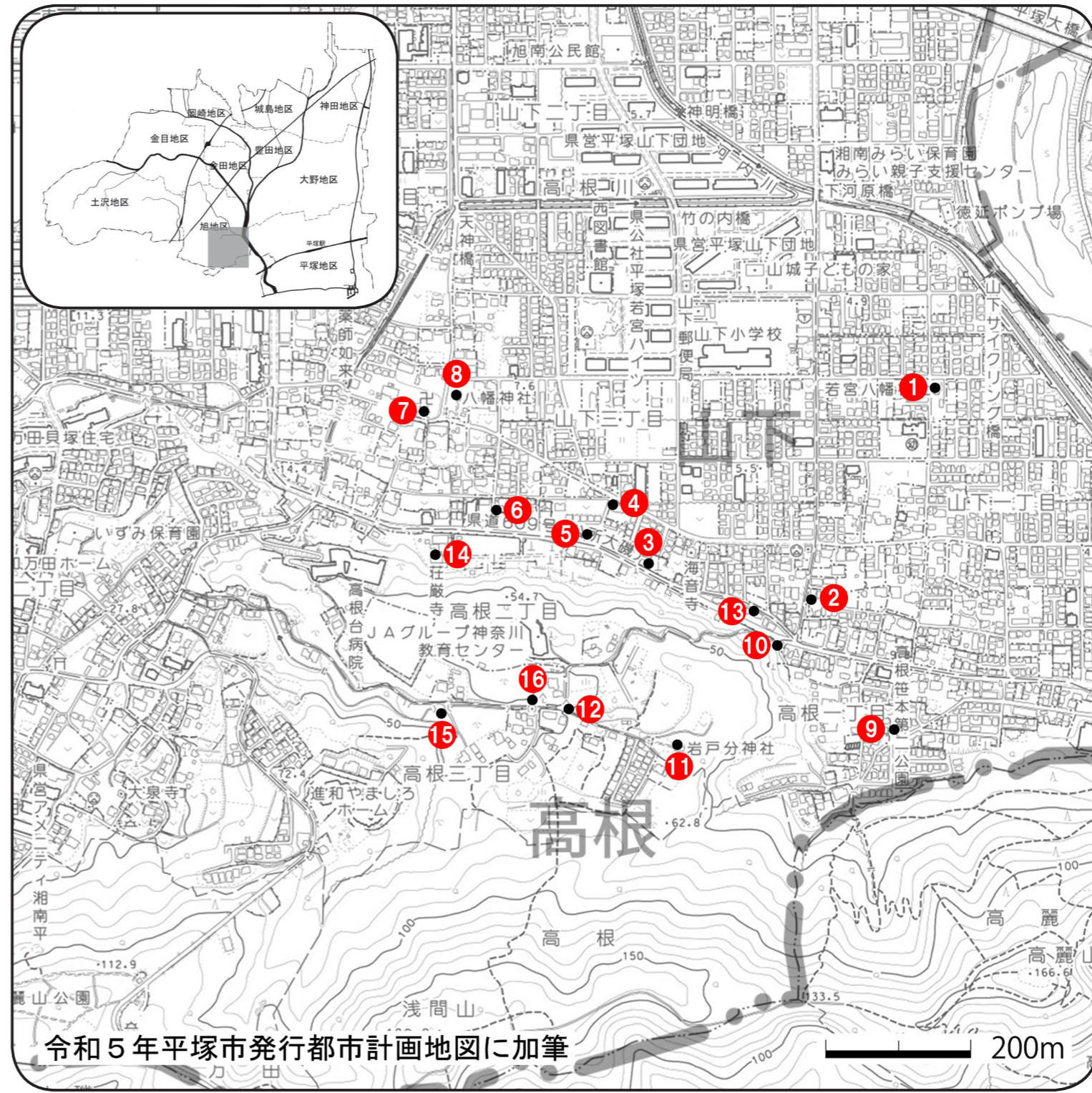
初期の道祖神は左右同形の僧形像でしたが18世紀中ごろから烏帽子や冠をかぶる神像が増えてきます。そして19世紀には双体像の男女の別が明確になり、一方で像を伴わない文字碑が主流を占めるようになっていきます。また単体像は18世紀に作られた古いタイプで全国的にも比率は低く、市域では田村と大神に集中しています。

道祖神は旭地区には38基あり、うち山下に3基、高根に4基あります。なかでも高根カミの元禄8年(1695)双体像は、造立年代の判明する道祖神では市内最古で、県内でも15番目に古い造立です。

今でも道祖神の造立は続いており、地蔵と並んで最も親しまれている石仏といえます。

### 山下・高根の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	若宮八幡神社	山下 1-29-1	道祖神、庚申塔、馬頭観音、地蔵他
2	白藤明神	山下 1-8-47	庚申塔、陽石
3	海音寺墓地内	山下 3-5-50	巡拝塔
4	山下路傍	山下 340	道祖神
5	山下路傍	山下 352	石祠
6	山下路傍	山下 368-1	馬頭観音
7	観音堂虎女住庵の蹟	山下 3-10-57	地蔵廻国塔、道祖神他
8	八幡神社	山下 3-11-7	庚申塔、手水石、宝篋印塔他
9	高根路傍	高根 67 東北	大日如来
10	高根屋敷跡	高根 79	不動明王
11	岩戸分神社	高根 1-15-1	大日如来、地神塔、石祠他
12	高根路傍	高根 130	道祖神、石祠、庚申塔



令和5年平塚市発行都市計画地図に加筆

番号	名称	住所	主な石仏
13	高根路傍	高根 2-1-3	動物供養塔、観音巡拝塔、地蔵、道祖神他
14	莊厳寺	高根 2-4-1	六地蔵、馬頭観音、道祖神、宝篋印塔他
15	高根路傍	高根 338 北	名号塔、観音、地蔵
16	高根路傍	高根 358 西	地蔵、観音

※当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和3年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け  
 石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。  
 また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり (24. 山下・高根編)  
 発行日：令和7年1月  
 編集：石仏を調べる会  
 発行：平塚市博物館  
 住所：神奈川県平塚市浅間町 12-41  
 電話：0463-33-5111

若宮八幡神社の石仏 (地図番号①)

若宮八幡神社は下山下の鎮守です。境内には19基の石仏が祀られています。ここでは鳥居脇の金網柵中の12基の石仏のうち、右側の自然石の名号塔と左側奥の道祖神について紹介します。

**六字名号塔** 石碑の上部が欠けていますが、正面に六字名号の下半分の「彌陀佛」、「徳」の古字「惠」と花押のほかに、阿弥陀如来のお誓いである無量寿経の中の「四誓偈」の一部が刻まれています。

「普照無際土 〔廣〕 濟衆厄難」とあり「限りなき世界をあまねく照らし広く様々な災難を救う」という意味です。

**文字道祖神** 碑は参道に向いて建っている下山下の道祖神です。

形態は角柱型ですが市内では見かけない、正面を深く中を彫りこみ、「道祖神」と陰刻してあり、当初は笠つきでした。

文字碑道祖神としては建立年の寛政5年(1793)は市内最古の紀年銘です。



六字名号塔 (年代不詳)



文字道祖神 (寛政5年)

白藤明神社の陽石 (地図番号②)

上山下には『曾我物語』に関連する史蹟が多くあります。下山下には曾我兄弟の兄の十郎祐成の愛妾(虎女)が追慕の念を断ち切ろうと、生前送られてきた文の数々を焼いた場所と伝えられる文塚が村民宅地に残っています。文塚の跡地には現在小社(白藤明神社)が祀られています。

参道脇には珍しい陽石が置かれており、年代は不明ですが願主名が刻まれています。



陽石 (年代不詳)

海音寺墓地内の巡拝塔 (地図番号③)

公所大磯線沿いから見える墓地内に、この巡拝塔があります。

碑正面の上部に梵字【卍】(聖観音)が刻まれ、その下中央に「秩父 西國坂東 百番供養塔」とあり、右側には「具一切功德」と、左側に「慈眼視衆生 沁子 諦念 嘉永元年」(1848)とあります。

これは、西国・坂東・秩父百力所の観音霊場の供養塔で、百番巡拝を記念し供養し建てた塔です。



巡拝塔 (嘉永元年)

虎女住庵跡の石仏 (地図番号⑦)

上山下の鎮守八幡神社に隣接する虎女住庵跡は、『曾我物語』に登場する曾我祐成が討たれたあと、虎女が尼となりここに閉居したと伝えられています。

**六十六部供養銘の地蔵** 観音堂境内の小屋に丸彫りの地蔵が祀られています。頭部は接合され、風化のため手の位置や持物がはっきりしません。台石正面に「奉供養六十六部 天下泰平 國土安全」とあり、台石左右の銘文から近くにある莊嚴寺の僧が廻国を成就して建立したものです。

全国的に廻国塔は元禄末から急激に建立されますが、この塔も元文元年(1736)建立でブームの一端といえます。

**双体道祖神** 境内の一角に段を設け石仏が並べられています。右から2番目の駒型の道祖神は、両神とも細身で烏帽子を被り、左神は笏を持ち、右神は幣を斜めに持っているようです。右神の背が少し高いので男神でしょうか。弘化三年正月吉日(1846)上山下村願主金兵工の銘があります。

周囲には剥離が進んだ2基の舟型地蔵や五輪塔などもあります。



地蔵 廻国塔 (元文元年)



双体道祖神 (弘化3年)

上山下八幡神社の石仏群 (地図番号⑧)

上山下八幡神社は700有余年この地に鎮座している村社です。

本殿右側の一角に金網で囲まれた小屋に宝篋印塔6基、笠付の庚申塔1基が収められています。

宝篋印塔はそれぞれ、一体の塔身は70~80cmで、造立年は不明ですが、なかには、塔身正面には梵字の【卍】が彫られています。また、網囲い右端には笠付きの庚申塔もあります。



石仏群 (年代不詳)

岩戸分神社の石仏 (地図番号⑩)

土を動かしてはいけない」といい、地神講が行なわれていました。講中が建てた石塔は大部分が文字塔で「地神(塔)」「堅牢地神(塔)」など数種類の表記があります。

市内の地神塔は全て文字塔で17基あり、高根地区はこれが唯一で「天保十五年正月」(1844)の銘があります。



左 地神塔 (天保15年) 右 大日如来 (嘉永4年)

高根路傍の道祖神と庚申塔 (地図番号⑫)

岩戸分神社手前100m位の三叉路の左側に2基の道祖神がひっそりと佇んでいます。

向かって右の双体道祖神は舟型で高さ50cmの僧形合掌像でほっそりとした姿には男女の区別がありません。頂部の種子は欠けていますが地蔵を表す【卍】と読めます。

建立は「元禄八乙亥天十二月吉日」(1695)です。市内に道祖神が建てられている場所は220ヶ所ですが、石に刻まれた年号でたどれる市内最古のものです。

向かって左側は、自然石に草書体で「道祖神」と刻まれた「天保十五辰十一吉日」(1844)造立の文字道祖神で、ともに上高根地区に疫病神や災いの集落への侵入を防ぐ道祖神です。初期の道祖神は左右とも同じような形をした双体像で頭をまるめた僧形が特徴です。一方19世紀以降は像が彫られない文字碑が主流を占めています。



左 文字道祖神 (天保15年)、右 双体道祖神 (元禄8年)

**庚申塔** 道祖神の向かいにある庚申塔は、総高143cmの笠付角柱で台座の一部が埋没しています。

正面は薬師如来の種子【卍】、その下に青面金剛の刻字と一猿、その左右に梵字で大日法身真言と大日報身真言が記されています。塔右面には金剛界五仏の種子と「寛文十一辛亥之天霜月十二日 高根村 住人等 敬白」(1671)の銘文と一猿。塔左面には釈迦如来の種子【卍】と法華経方便品第二の一偈頌と一猿。江戸初期に高根村の知識人と地元の有力者が造立したことを示す貴重な石仏です。



庚申塔 (寛文11年)

高根路傍の石仏群 (地図番号⑬)

向かって左より、日支事変で戦没した忠馬(百飛号、百智号)の動物供養塔(昭和14年(1939))、上部の笠が欠損した塔の正面に聖観音を彫った西国三十三観音巡拝塔(明和9年(1772))、一つ置いて地蔵立像(年代不詳)、正面に羽黒山・湯殿山・月山の出羽三山、側面に秩父・西国・坂東の百番観音を刻む巡拝塔(天保5年(1834))、右端は下高根の道祖神として祀る五輪塔の一部です。



左端 動物供養塔 (昭和14年) 左より2番目 巡拝塔 (明和9年) 左より4番目 巡拝塔 (天保5年)

莊嚴寺の石仏 (地図番号⑭)

山下の里近くの高根にある天台宗 莊嚴寺は仁寿年間(851~854)のころ、円仁が東国巡錫のおり開創したと伝えられる古刹です。また、この地に伝わる虎女はこの莊嚴寺で出家したと言われ、莊嚴寺本尊地蔵は「虎女の持念仏」と伝えられています。

**六地蔵** 入口をはいると左側の覆屋の中に像高80cm位の丸彫りの六地蔵が並んでいます。

一番左端地蔵の台石に「六十六部供養 享保十乙巳六月吉日」(1725)の銘文があります。他は法名のみですが、おそらくこの時代のものと思われる。

**宝篋印塔** 山門をくぐると左側に、全体の剥落が激しく、上部相輪も欠損した宝篋印塔が現れます。

塔身(2m位)は二層で上部に金剛界五仏の種子(ウーシタラウキリーク アク)が判別できます(塔身そのものが大日如来を表わす)。

基礎部正面に「一萬部供養塔」、裏面には「元文三季戊午□□」(1738)の銘が見られ江戸中期のものです。



六地蔵 (享保10年)



宝篋印塔 (元文3年)

高根路傍の小屋の中の地蔵 (地図番号⑯)

岩戸分神社の西道路脇に地蔵が祀られています。像高76cmの地蔵は身体全体が布で覆われています。台石に「供養 念佛講中 庚申講中 高根村」とあり両講中が共同で建立したものです。

享保3年(1718)の建立で、昔は高根村北の山中にあり「山の上のお地蔵さん」といわれていたそうです。周囲には銘文のない40cmほどの小さな地蔵、如意輪観音、如来などが並んでいます。



地蔵 (享保3年)